

# 公開特許・実用（抄録A）

【名称】内装部品構造

特開2002-316572

審査/評価者請求 未 請求項/発明の数 4 (公報 5頁、抄録 4頁) 公開日 平成14年(2002)10月29日

出願/権利者 スズキ株式会社（静岡県浜松市高塚町300番地）  
発明/考案者 須藤 充（他1名）※  
出願番号 特願2001-126922 平成13年(2001)4月25日  
代理人 奥山 尚一  
Fターム 3B088, 3D022

Int. Cl. 7 識別記号  
B60N 3/10  
B60R 7/04  
FI  
B60N 3/10  
B60R 7/04

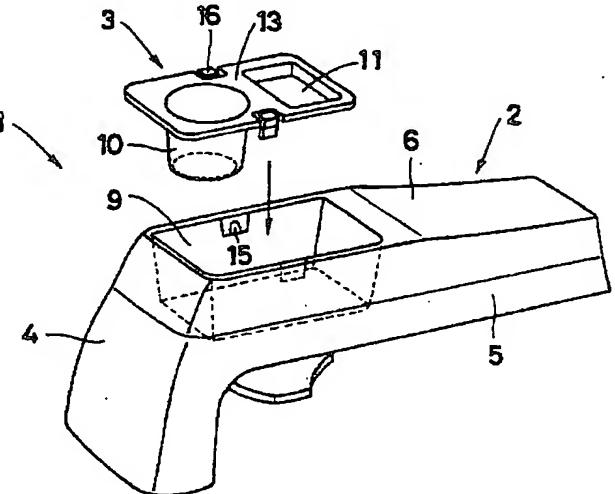
※最終頁に続く

【発明の属する技術分野】本発明は、自動車等の車両に用いられ、容器類を保持するカップホルダー等を備えた内装部品構造に関する。

(57) 【要約】

【課題】自動車に配設されるカップホルダー等の内装部品の取付構造を提供すること。

【解決手段】自動車のセンターコンソール1は、コンソール本体2とトレイ3とに2分割されている。すなわち上面6にボックス状の凹部7が形成されている。凹部7は、上方の上面6に四角形の開口9を有している。開口9を閉塞する役割を果たすトレイ3は、長手方向の一端側に容器状の有底円筒形のカップホルダー10が形成され、他端側に小物入れ11が形成されている。トレイ3は、係止爪16を係止孔15に係止させると、コンソール本体2に固定され、コンソール本体2に対して着脱自在である。トレイ3は180度回転させることにより、カップホルダー10と小物入れ11の位置を前後方向に逆転した位置に取付けることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】内装部品に取付けた板状部材において、該板状部材は略水平な面から成る本体部と、該本体部の垂直中心軸から離れた位置に容器をカップホルダーとして挿入可能な凹部又は孔を備え、前記板状部材は、前記内装部品に対して前記本体部の前記垂直中心軸を軸とした水平方向の回動により、複数の位置で使用が可能であることを特徴とする内装部品構造。

【請求項2】前記内装部品に対して前記板状部材を固定するロック機構を複数設け、該ロック機構は前記板状部材の中心軸に対して対称に設けることにより、複数の位置で共通のロック機構を使用可能としたことを特徴とする請求項1に記載の内装部品構造。

【請求項3】前記板状部材を前記内装部品に対して着脱可能とし、前記本体部の前記中心軸を軸とした水平方向に180度回転した状態で、前記内装部品に取付け可能としたことを特徴とする請求項1または2に記載の内装部品構造。

【請求項4】前記本体部の前記容器の挿入が可能な凹部又は孔が設けられた以外の場所に物入れを設けたことを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載の内装部品構造。

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態による内装部品の取付構造について、図面を参照しながら説明する。図1は、自動車のセンターコンソールの分解斜視

図であり、図2はセンターコンソールを組み付けた状態の斜視図であり、図3はセンターコンソールの前面の断面図である。センターコンソール1は、自動車の中央部の前後方向に沿って、図示しないフロアパネル上に延在し、運転席と助手席との間に配設されている。このセンターコンソール1は、本実施形態では樹脂製であり、各々一体成形で形成されたコンソール本体2とトレイ3とに2分割されている。

コンソール本体2は、湾曲して車体の前側に向いている前面4、ほぼ垂直方向に延在する左右両側面5（片側の左側面のみ符号5を付す）及びこれらの面4、5と囲まれるように接する上面6とが設けられている。上面6は車両の前後方向へ長手に延び、ほぼ水平方向に延在する平面形状であり、上面6と前面4との境界部の後方にボックス状の凹部7が形成されている。凹部7は、上方の上面6に四角形の開口9を有し、車体の前後方向に長い四角形状の箱形空間であり、物入れとして使用可能である。そして、その開口9の周囲には、上面6の基準面高さより一段下方に低い段部8が形成されている。

開口9を閉塞する役割を果たす蓋部材としてのトレイ3は、上側に位置する蓋部13の周部形状が開口9とほぼ同じ四角形であり、図3に示すように、蓋部13の外周部には、この外周部から下向きに向けられたフラン

ジ14が形成されている。フランジ14は、凹部7の周囲に形成されている段部8に載置されることによって、開口9を閉塞する。蓋部13には、長手方向の一端側に容器状のカップホルダー10が形成され、他端側に小物入れ11が形成されている。カップホルダー10は有底円筒形状であり、カップホルダー10の底部を凹部7の底部側に突出させている。

小物入れ11は、四角形状の開口を有し、底部が凹部7の底部側に突出する四角形空間を有する。このように、カップホルダー10と小物入れ11は、蓋部13の中心軸、すなわち、四角形状の対角線の交点を挟んで対向した位置に配設されている。コンソール本体2の凹部7の左右両側部には、凹部7の長手方向の中心部に位置させて、逆U字形状の係止孔15を形成している。他方、トレイ3の蓋部13の左右両側部には、蓋部13の長手方向の中心部に位置させて、係止爪16を取付けている。トレイ3は、外側に弾性付勢力を有する係止爪16を係止孔15にはめ込むようにして係止させると、コンソール本体2に固定され、係止爪16を係止孔15から解放するとトレイ3をコンソール本体2から外すことができ、トレイ3はコンソール本体2に対して着脱自在となる。

次に、本発明の実施の形態の作用について説明する。図2に示すように、トレイ3をコンソール本体2に固定した状態では、トレイ3のカップホルダー10が前側に位置し、小物入れ11が後側に位置する。このような状態で、乗員がシートに着座したときに、カップホルダー10の位置が前過ぎるような位置であると判断したときは、トレイ3を図1に示すように外し、図1の状態から180度水平方向に回転させて、トレイ3を、コンソール本体2に固定する。凹部7の係止孔15とトレイ3の係止爪16を、トレイ3の蓋部13の中心線に対して対称に配置したので、トレイ3を180度回転させても、凹部7に装着することができる。

図4は、半回転させた後のトレイ3の状態を示し、図5はトレイ3の断面図である。図に示すように、小物入れ11がセンターコンソール1の前側に位置し、カップホルダー10が後側に位置する。よって、乗員はカップホルダー10内に缶ジュースを入れて保持させたような場合に、缶ジュースが取りやすい位置にあり、使い勝手がよくなる。また、乗員がシートを前後いすれかに移動させる際にも、トレイ3を回転させて、再度位置合わせができる。このように、本実施形態では、カップホルダー及び小物入れの設定位置を乗員の好みに応じて、2パターンの選択が可能となる。なお、凹部7の内部にも小物類を収容することができる。

次に、本発明の第2の実施の形態を説明する。図6は、内装部材21にトレイ22を取付けた状態を示す。内装部材21には円形の孔23を穿設し、円形のトレイ22の底部が孔23に回動可能に嵌合している。トレイ22は、係止爪のような係止部は、形成されておらず、蓋部材としてのトレイ22を外すことなく、そのままの位置で、矢印aに示すように水平方向の回動が可能である。トレイ22には、その中心軸24と偏心させた位置に有底円筒形のカップホルダー25が一体成形により設けられている。よって、トレイ22を回転させることにより、カップホルダー25の位置を360度の範囲で、前後左右方向に変えることができる。

次に、本発明の第3の実施の形態を説明する。図7は、内装部材31にトレイ32を取付けた状態を示す。

内装部材31には正方形の孔33を穿設し、各孔33の側部には上記第1の実施の形態と同様に図示しない係止孔が形成されている。正方形のトレイ32には、トレイ32の任意の一辺の中央部に位置させて有底円筒形のカップホルダー35が設けられている。トレイ32には、上記した係止孔に係止される係止爪34が、トレイ32の四辺の各辺に、かつ、各辺の中心部に位置させて形成されている。係止爪34を係止孔から解放することにより、トレイ32を外し、トレイ32を回転させることにより、カップホルダー35の位置を変えることができる。本実施形態では、係止爪34をトレイ32の各辺の中心部に90度間隔で配設しているので、カップホルダー35の位置を90度毎に、前後左右に変えることができる。

以上、本発明の各実施の形態について説明したが、勿論、本発明はこれらに限定されることなく本発明の技術的思想に基いて、種々の変形及び変更が可能である。例えば、上記第1の実施の形態では、トレイ3をセンターコンソール1に取付けるようにしたが、自動車の他の内装部品、例えばドアの肘当て部やインストルメントパネルのアンダートレイ等の内装部品に取付けるようにしてもよい。カップホルダー10は、有底円筒形でなく蓋部13に単なる孔を開けて、凹部7の底部に載置するようにもよい。上記第2の実施の形態では、トレイ22に外側に弾性的に押圧するような爪を設け、孔23の縁を該爪で押圧することにより、トレイ22を孔23にロックするようにしてもよい。かかる場合は、トレイ22を孔23から外さずに、そのままの位置で、トレイ22の回転が可能になる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態による内装部材構造を採用しているセンターコンソールの分解斜視図である。

【図2】図1のセンターコンソールを組み付けた状態を示す斜視図である。

【図3】図2におけるA-A線方向の断面図である。

【図4】図2のセンターコンソールのトレイを180度回転させた状態を示す斜視図である。

【図5】図4におけるB-B線方向の断面図である。

【図6】本発明の第2の実施の形態による内装部材構造を採用している内装材にトレイが取付けられている状態を示す。

【図7】本発明の第3の実施の形態による内装部材構造を採用している内装材にトレイが取付けられている状態を示す。

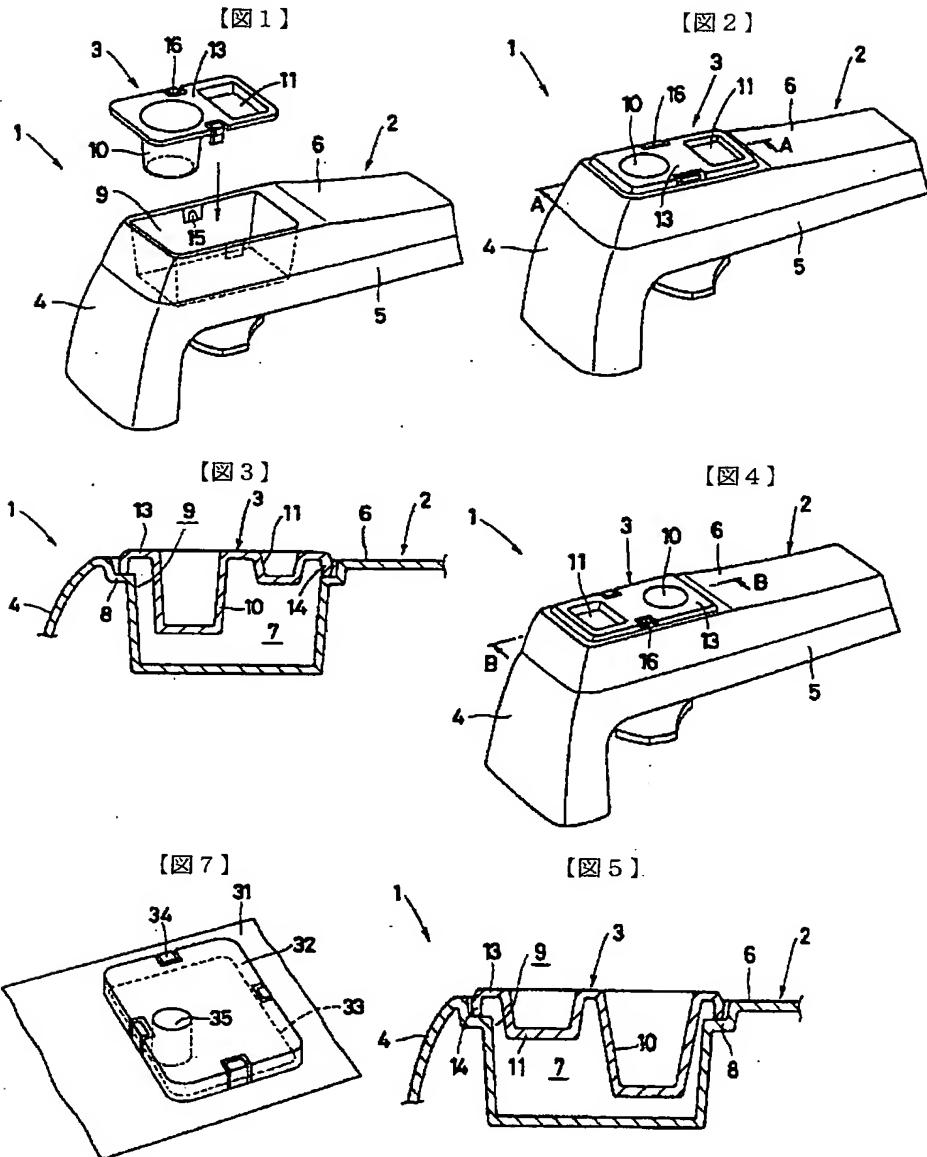
【図8】従来の内装部材構造を採用しているカップホルダーを有するセンターコンソールの斜視図である。

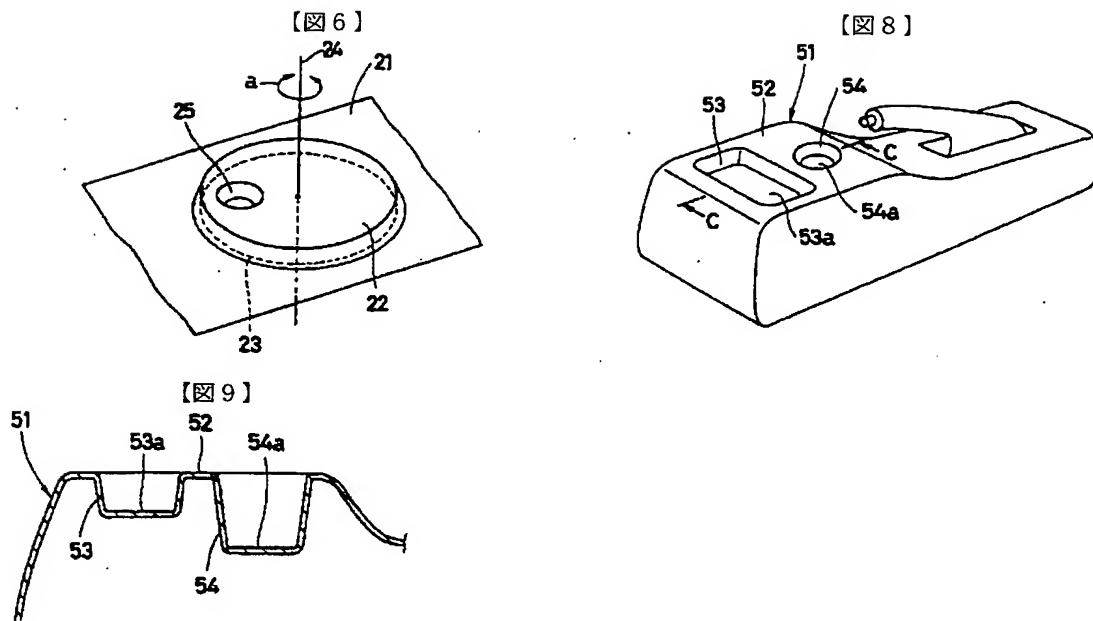
【図9】図8におけるC-C線方向の断面図である。

#### 【符号の説明】

- 1 センターコンソール
- 2 コンソール本体
- 3, 22, 32 トレイ (板状部材)
- 6 上面
- 9 開口
- 10, 25, 35 カップホルダー
- 11 小物入れ
- 13 蓋部

15 係止孔  
 16, 34 係止爪  
 21, 22 内装部材  
 24 中心軸





## 【書誌的事項の続き】

【F I】 B60N 3/10;B60R 7/04

【Fターム】 3B088LA03;LB01

3D022CA07;CB01;CC19;CD09

【識別番号または出願人コード】 000002082

【出願／権利者名】 スズキ株式会社

静岡県浜松市高塚町300番地

【発明／考案者名】 須藤 充

静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式会社内

【発明／考案者名】 砂走 和人

静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式会社内

【代理人】 奥山 尚一 (100099623)

【出願形態】 0L

注) 本抄録の書誌的事項は初期登録時のデータで作成されています。